

惨禍・ネパール

ヒマラヤ水系で大洪水

下

今回の洪水の最大の原因は森林の枯渇だが、ネパール政府は森林枯渇対策を進める一方で、激しく森林を伐採、問題も度々起きた。

マルラ事件もその一例である。一九八八年五月、職権

乱用防止委員会は、マルラ

元森林土壌保全相を森林伐採許可証不法発給の疑いで拘束した。

だが、真相究明は進まな

かった。捜査を進めると疑

惑が当時のシュレスタ首相

にも及ぶ可能性があったか

らだ。九〇年まで二十九年

ヤット体制」を廃止、複数政党制を導入した。九一年五月、民主化後、初の総選挙では、国民会議派が過半数を占め、コイララ首相

が民主化と経済開発に力を

入れている。

ネパールの経済は農業部門が国民総生産の六〇

％弱を占めるが、農作は

現在のネパールの国家開

発戦略は、貧困緩和、地方

開発、雇用の機会の創造、

教育ならびに飲料水供給などの社会福祉の充実にある。このネパールの開発戦

のだから無理もない。第二に官僚機構が機能していない。専制政治時代には熟達した官僚群が要所を押さえていた。これらの官僚のほとんどすべてが民主化政権のもとで強制辞職させられている。

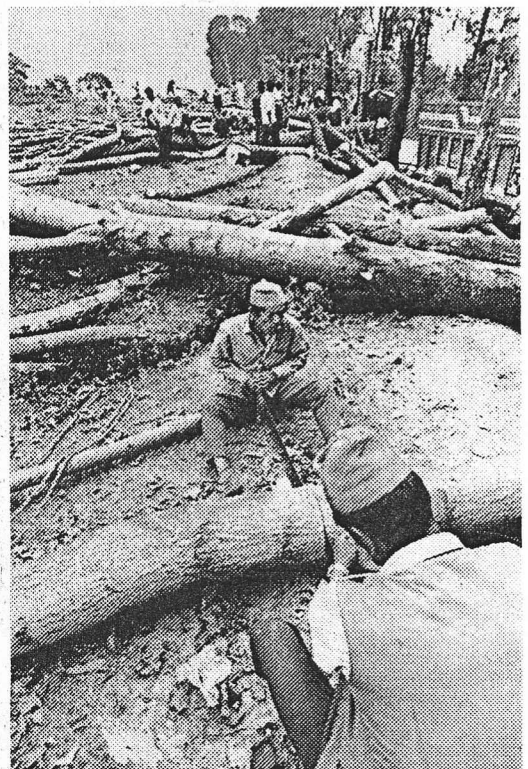
最後に政治家、官僚、および民間のすべてにわたる汚職のまん延がある。

ネパールでは、今やかつてのインドのように公然と行われ、わいろを受け取らないと非協力的とみなされ地位が危なくなる。

ネパールは、一人当たり

のだから無理もない。第二に官僚機構が機能していない。専制政治時代には熟達した官僚群が要所を押さえていた。これらの官僚のほとんどすべてが民主化政権のもとで強制辞職させられている。

洪水で物流が途絶え、足りなくなった生活必需品のまきを作る業者「カトマナス近くで



援助に頼る最貧国

農業作物「発展、5年間逆戻り」 収穫激減

雨水に依存しており、毎年の天候により農業生産は大きく左右される。今回の洪水により農業作物の収穫が激減するのは明らかで、

「国の発展を五年間逆戻り

略は方向としては正しい。しかし問題がある。第一に現在のコイララ政権の行政能力が非常に低いことである。三十年にわたり野にいたった党が政権の座についた

年国民所得百七十ドル。後

依存している。

日本はネパールに対する

二国間援助の最大の供与

国であり、その援助はあらゆる分野に広がっている。

月十一日)によると、開発

ゆる分野に広がっている。

資金集中型プロジェクト

野に立った分野別のプロジェクトと化するのだ。

相手国との政策対話もな

いまま、彼らの国内事情を

考慮しないため、日本の援

助はきめ細かさに欠け、そ

の質は明らかに劣化、特に

ネパールのような後発開発

途上国ではきしみを生じて

いる。相手国に対する自助

努力要求が、援助の無駄を

生じる一つの原因ともなっ

ているのだ。

(高山一義・元外務省専門

調査員、写真も)